



しんばし本店解体進む

宇和島跡地利用フジ「計画中」

宇和島市民から「しんばしデパート」の愛称で親しまれ、2020年に閉店したしんばし本店（同市新町1丁目）の解体工事が進んでいる。22日には最大作業高約35メートルの巨大な重機が投入され、柱や梁（はり）などの解体を始めた。物件を所有するスーパードット（松山市）は、跡地について「フジカンパニースでの利用を計画中」としている。

工事を担う神開発（松山市）によると、新たに導入した大型重機は西日本で2例目。地上から直接解体でき、効率的な作業が可能になるため、工期を短縮する

大型重機での解体が始まった「しんばし本店」は22日午前、宇和島市新町1丁目

建てで、延べ床面積は約9800平方メートル。工事完了は3月下旬の見通し。

宇和島市中心商店街近くの現場では午前8時半ごろ、2日かけて組み上げた大型重機が作動。粉じん対策として放水をしながら、アームを前後左右に動かし鉄骨などを砕いていた。

神開発の三神二郎社長は「解体工事は近隣住民の協力があったからこそできる。安全第一で取り組みたい」と話していた。

南予でスーパードット「しんばし」を運営していた大見屋（宇和島市）は、20年8月末に自己破産申請し閉店。同社が所有していた宇和島、鬼北、愛南の3市町の5店舗を21年7月、フジが取得していた。

ことができる。建物は鉄骨・鉄筋コンクリート造7階

（井上華菜子）

カイトイは、
未来へのはじまり。
KAMI